

令和元年度 第2回 足立区地域保健福祉推進協議会
「子ども支援専門部会」

令和元年7月16日

件 名	「第2期子ども・子育て支援事業計画」の施策体系（骨子案）と今後の策定スケジュールについて
所 管 部 課	子ども家庭部子ども政策課
内 容	「第2期子ども・子育て支援事業計画（以下「事業計画」という。）」は、区の基本計画及び現在策定中の教育振興ビジョン等との整合性を計りながら、現計画との継続性に留意し、計画の施策体系・目標、その達成状況を図るための指標等を定めていく。 記 1 施策群評価の実施及び事業計画の施策体系（骨子案） （1）現計画の施策群評価の実施 事業計画の施策体系（骨子案）策定にあたり、現計画の施策群評価（内部評価）を実施したため、ご意見を伺う（詳細は、審議・調査資料1－1を参照）。なお、施策群は目標値を設定していないため、実績からの評価を行う。 ア 施策群1 成果指標 自分には良いところがあると思う子どもの割合 ・ 子ども家庭部評価 体験や交流活動、生活習慣の確立など、これまでの取り組みの成果や課題を踏まえて各事業を磨き上げ、子育て支援の「質の向上」を目指していくことが重要である。 イ 施策群2 成果指標 ①子育てを楽しんでいる保護者の割合 ②子育てを辛いと感じる保護者の割合 ・ 子ども家庭部評価 支援が途切れないように、就学前・後施設や就学前施設同士の連携の強化に加えて、次のライフステージに「つなぐ」取り組みが必要である。 （2）事業計画の施策体系（骨子案） 区民へのニーズ調査結果や施策群評価、事業評価を踏まえて、施策体系（骨子案）の考えをまとめたため、ご意見を伺う（詳細は、審議・調査資料1－2を参照【当日にお示しします】）。 ア 施策体系（骨子案）の考え方 ①基本理念、柱立て、施策は、次の5年にも引き継ぐ。 ②事業計画は、基本計画等の下に位置付ける。 ③ニーズ調査等を踏まえて、次の視点を盛り込む。

	・保育の「量の整備」を進めつつ、各事業を磨き上げ、子育て支援の「質の向上」を図る ・虐待予防や子育てに支援が必要な人への施策展開と庁内連携の強化による、次のライフステージへの「つなぎ」の取組み
	2 策定スケジュール（予定） 足立区地域保健福祉推進協議会（以下「推進協」という。）での意見聴取及び経過報告を行いながら、策定作業を進めていく。 令和元年 7～8 月 推進協及び子ども支援専門部会にて意見聴取 【施策体系骨子案】 令和元年 8～9 月 各施策実現のための指標の検討、計画素案の作成 令和元年 10 月 子ども支援専門部会にて意見聴取【計画素案】 令和元年 11 月 パブリックコメントの実施 令和元年 12 月 推進協及び子ども支援専門部会にて意見聴取 【パブコメ実施結果及び計画案】 令和 2 年 2 月 子ども支援専門部会にて意見聴取【計画案】 令和 2 年 3 月 教育委員会議決【計画確定】 令和 2 年 3 月 推進協へ報告【計画確定】

施策群評価					審議・調査事項1-1				
柱立て		自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた							
施策群		施策群 1：家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む（子支援）							
成果指標	指標名	指標の定義	基準値		実績値				
	自分には良いところがあると思う子どもの割合	足立区基礎学力定着に関する総合調査による。対象は区立小学校2年生 ※成績順にA層、B層、C層に分け成績層ごとの回答割合	H27		H28	H29	H30	H31	
			単位	%					
			A	76.3	80.2	79.4	81.4	—	
			B	70.5	69.1	68.8	73.1	—	
			C	60.2	62.4	63.7	64.6	—	
成果分析									
施策群1は、主として子どもの支援につながる施策を束ねている。良いところがあると思う子どもの割合は27年度以降どの階層もゆるやかな増加傾向にある。自己肯定感を培う時期である乳幼児期から、保護者へのアプローチを図りながら、子どもを中心とした多岐に渡る事業を推進している。歯科健診や幼保小連携活動による交流活動の活発化、ギャラクシティでの体験活動など、各事業の達成状況は高く、各事業を推進することで、引き続き子どもの自己肯定感の向上につなげていく。									
課題分析									
食育の推進や歯科健診、早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣の確立には、各関係機関と保護者との連携が不可欠である。そのため、健診に来られない人や生活習慣の確立に関心がない人などに対するフォローを関係機関同士が連携して、実施する必要がある。									
子ども家庭部評価									
体験や交流活動、生活習慣の確立など、これまでの取組みの成果や課題を踏まえて各事業を磨き上げ、子育て支援の「質の向上」を目指していくことが重要である。短期間では成果に出にくいいため、関係機関が連携し、自己肯定感の向上に資するよう各施策を推進する必要がある。									

施策群評価																											
柱立て		自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人																									
施策群		施策群2：妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える（親支援）																									
成果指標	指標名	指標の定義	基準値		実績値																						
	①子育てを楽し いと感じる保護 者の割合	・1歳6か月児及び3歳児健康診 査アンケート ・区立保育園・子ども園、私 立保育園、私立幼稚園に通園 する子どもの保護者(5歳児) 「あてはまる」と回答した割合	H27		H28	H29	H30	H31																			
			単位	%																							
			1歳6か月児	55	54.5	56.7	55.9	-																			
			3歳児	45.9	47.9	48.4	47.8	-																			
			5歳児	62.4	54.9	45.7	43.8	-																			
成果分析																											
施策群2は、主として親の支援につながる施策を束ねている。1歳6か月児と3歳児においては、基準値は上回っているものの、ほぼ横ばいで推移している。5歳児においては、健康診査のアンケートの質問に合わせて29年度より変更したため、基準値との単純比較はできないが、29年度から微減となっている。なお、「ややあてはまる」とした保護者も合わせると9割に達している。			成果指標の経年動向 <table><thead><tr><th>年度</th><th>1歳6か月児</th><th>3歳児</th><th>5歳児</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27年度</td><td>55</td><td>45.9</td><td>62.4</td></tr><tr><td>H28年度</td><td>54.5</td><td>47.9</td><td>54.9</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>56.7</td><td>48.4</td><td>45.7</td></tr><tr><td>H30年度</td><td>55.9</td><td>47.8</td><td>43.8</td></tr></tbody></table> ● 1歳6か月児 ● 3歳児 ◆ 5歳児					年度	1歳6か月児	3歳児	5歳児	H27年度	55	45.9	62.4	H28年度	54.5	47.9	54.9	H29年度	56.7	48.4	45.7	H30年度	55.9	47.8	43.8
年度	1歳6か月児	3歳児	5歳児																								
H27年度	55	45.9	62.4																								
H28年度	54.5	47.9	54.9																								
H29年度	56.7	48.4	45.7																								
H30年度	55.9	47.8	43.8																								
課題分析			子ども家庭部評価 各アンケートにおいて、ほぼ横ばいの傾向が見られている。子育てにおいて、地域でも家庭でも、親が孤立することがないよう、各関係機関が連携を図りながら、区が保有する居場所や相談先などを整備するとともに、情報を重層的に提供し、保護者の安心につなげていくことが重要である。																								

施策群評価																											
柱立て		自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人																									
施策群		妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える（親支援）																									
成果指標	指標名	指標の定義	基準値		実績値																						
	②子育てを辛いと感じる保護者の割合	・1歳6か月児及び3歳児健康診査アンケート ・区立保育園・子ども園、私立保育園、私立幼稚園に通園する子どもの保護者(5歳児) ②は低減目標	H27		H28	H29	H30	H31																			
			単位	%																							
			1歳6か月児	3.1	3.4	3.8	3.4	-																			
			3歳児	5	4.9	5.1	5.6	-																			
			5歳児	4.8	5.5	10	8.4	-																			
成果分析		成果指標の経年動向 <table><thead><tr><th>年度</th><th>1歳6か月児</th><th>3歳児</th><th>5歳児</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27年度</td><td>3.1</td><td>5.0</td><td>4.8</td></tr><tr><td>H28年度</td><td>3.4</td><td>4.9</td><td>5.5</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>3.8</td><td>5.1</td><td>10.0</td></tr><tr><td>H30年度</td><td>3.4</td><td>5.6</td><td>8.4</td></tr></tbody></table> ● 1歳6か月児 ● 3歳児 ◆ 5歳児						年度	1歳6か月児	3歳児	5歳児	H27年度	3.1	5.0	4.8	H28年度	3.4	4.9	5.5	H29年度	3.8	5.1	10.0	H30年度	3.4	5.6	8.4
年度	1歳6か月児	3歳児	5歳児																								
H27年度	3.1	5.0	4.8																								
H28年度	3.4	4.9	5.5																								
H29年度	3.8	5.1	10.0																								
H30年度	3.4	5.6	8.4																								
課題分析		引き続き、保護者に早期にアプローチすることで、子育ての負担を軽減し、実績値が減少するよう努めていくことが重要である。5歳児においては、子育てを辛いと感じている理由として「家庭でほとんど一人でしている」が挙げられている。子育てで孤立する可能性がある保護者に対する施策の展開が課題である。																									
子ども家庭部評価																											
一定数存在する、子育てを辛いと感じる保護者に対して必要な支援が届くための施策展開が重要である。また、支援が途切れないように、就学前・後施設や就学前施設同士の連携の強化に加えて、次のライフステージに「つなぐ」取り組みが必要である。																											